

「米沢五感塾 2008」を開催して — 原点回帰： 帝人グループの創業の息吹に触れる —



帝人グループ 「私がやる！」プロジェクト リーダー
(帝人クリエイティブスタッフ(株) 人財部 人財開発グループ)

2008年10月24～26日にかけて、「私がやる！」プロジェクト^(※1)が主催して念願の「米沢五感塾」を開催できました。職場リーダーもしくはリーダー候補の自発的な学びの機会として、特に、思い・情熱・志を高めて行動に移すための場づくりとして、社内外を含めて計29名が参加しました^(※2)。安部三十郎市長をはじめとする米沢市民の皆さまのご支援ご協力をいただきながら、熱い語りと感動に溢れた3日間となり、感謝の気持ちで一杯です。

※1) 「私がやる！」プロジェクト：

帝人グループ内の社員活性化活動。ボトムアップで、しかも自然発生型で帝人グループの組織風土を改革しようと、自分のやりたいテーマを草の根的に実践する。

※2) 29名の内訳：

帝人グループ社員14名、その家族4名、他社や他の組織7名、学生2名、他の地域1名、米沢工業会 山崎洋一郎氏（「現地プロデューサー」）として。

◆五感塾のユニークさ

五感塾の特徴は、「これまでの企業人教育とは逆の発想」にあります。主なポイントを以下にまとめます（4ページの「参考資料1」参照方）：

★五感塾の3大特徴

1. **本気度**：学びたい人が集まる
→ 通常の研修は「会社が指名した社員が集まる」
2. **自主性**：参加者自身が準備・実行・後始末する
→ 通常の研修は「研修担当がお膳立てし、研修生はお客様気分で参加する」
3. **切磋琢磨**：老若男女（異業種・家族・友人・学生など）が一緒に学ぶ
→ 通常の研修は「階層ごと、昇進時など、同質性の高い人間が集まる」

★効果（参加者が織りなす“化学反応”）

1. 外部の参加者に、自分の組織（共同体）を違う視点で語ってもらえる
2. 地域では小さな人間集団の単位（共同体）が見え、自分の役割を認識しやすい

上記2つの点から**志や人間性・人柄といった部分での「気づき」**が多く、参加者には「自分の足下で実践しよう！」という気持ちが発芽・開花しやすい。また、職場・現場での行動において、職業的腕力だけでなく、**個性的で豊かな自らの「人間力」**を活かして**リーダーシップを発揮しようとの動機づけ**がしやすい。

◆米沢五感塾 2008 開催の経緯

現在の会社組織の中では、会社への帰属意識や誇り、愛社精神を求心力として社員のモチベーションを維持向上することが難しくなっています。そんな時代の流れの中で、帝人グループでも、発祥の地が米沢であることを知り、さらに自分の言葉で自社の歴史を語れる帝人マン／帝人ウーマンは減少しています。ましてや、自分の足で米沢の地を踏みしめた経験のある社員は希少であると言わざるを得ません。

こうした問題意識の中で、米沢の現地現物に触れながら、創業の息吹を五感で感じ取る研修をつくってはどうかと思い立ちました。昨年12月に米沢工業会の山崎洋一郎さん（米沢五感塾の「現地プロデューサー」）との初顔合わせ、本年2月には雪灯蠟まつり期間中に合宿研修を実施（若手・中堅15名が参加）、さらに6月と9月の事前視察を経て、今回のプログラムが決定しました（5ページの「参考資料2」参照方）。



◆飾らない“いいひと”、飾らない“いいまち”

2泊3日のプログラムから体感したことは、飾らない“いいひと”たちが、飾らない“いいまち”を創っているということです。気配り、おもてなし、米沢への思い。米沢と同様に、帝人グループも派手なイメージのある会社ではありませんが、等身大、自然体の社員が少しでもいいビジネスをしようと切磋琢磨しています。今回の「米沢五感塾2008」では、米沢の皆さんと触れ合いながら、私たちの原点をより身近な存在として感じ取ることができました。



◆地域と企業の末永い共存を

せっかくの機会を活かし、研修生が学んだ成果を「米沢活性化のための提言」として取りまとめ、安部市長にお渡しする予定です。当初は稚拙な内容かも知れませんが、経年の積み重ねにより、一つ二つと米沢市民の皆さにお役に立てるようなアイデアを創出できるよう、皆で尽力して参ります。こうした地道な取り組みを通じ、“志”を持って行動する米沢



マン／米沢ウーマン、“志”を持って行動する帝人マン／帝人ウーマンが一人二人と増え、地域と企業が末永く共存して発展していくことを願います。

◆ワタシにとっての米沢五感塾 2008

私にとって今回は、①会社のルーツ（帝人グループ発祥の地）、②仕事のルーツ（私がやる！＝なせば成る）③家庭のルーツ（母方の祖父の故郷）という3つの“原点”が重なっていました。そこに私の両親も参加したことで、特別な感情が湧いてきました。

特に後半のプログラムで家庭教育の話題が続き、父母が私に施してくれた愛情の深さ、丁寧で密接な関わり、アタリマエのしつけや教育、祖父母との同居、息子（私）と娘（妹）のいいところを伸ばすホメ言葉や励ましなど、“大切なもの”の溢れた家庭で育ったことを再認識しました。

そして最終日。母の「参加してよかった。ありがとう」という声を詰まらせながらのシンプルなスピーチ……その共鳴で私の口から出た両親への思い……こんなハプニングが五感塾の威力を現しているのかも知れません。



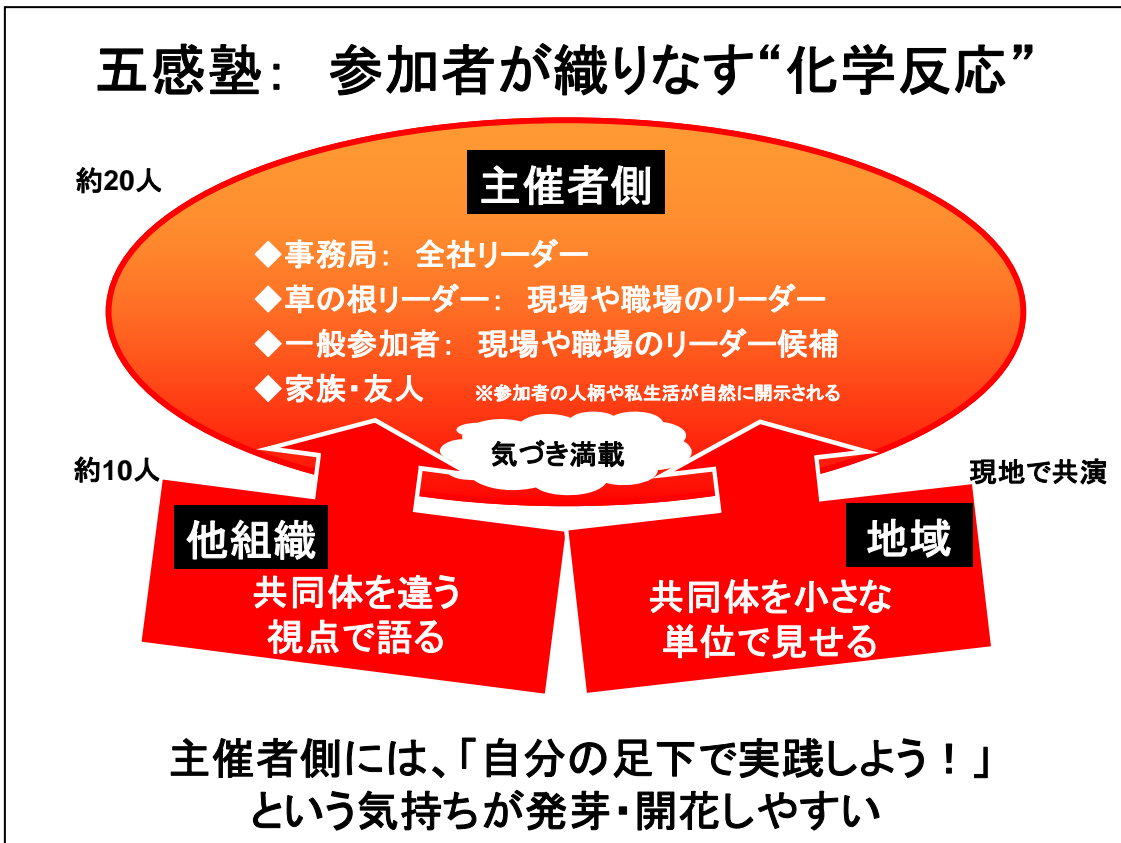
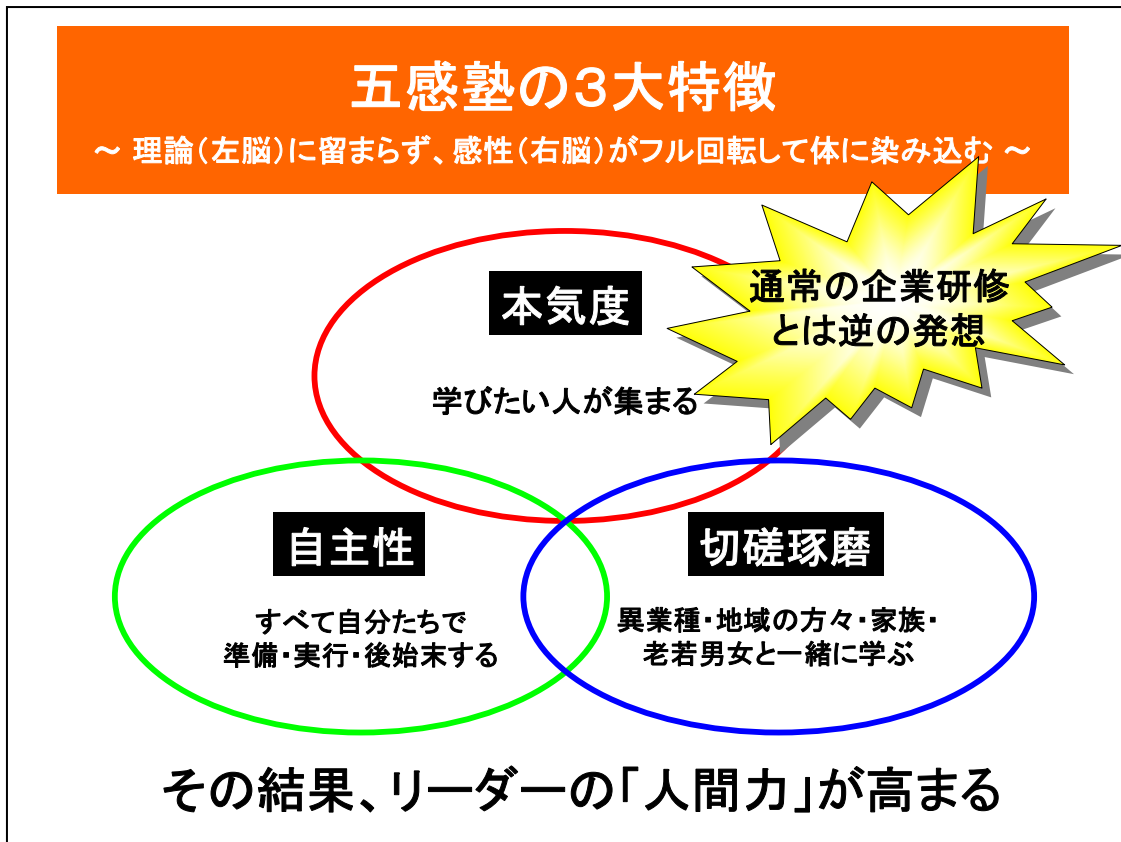
◆最後に

現在の帝人グループは、海外も含めて様々な地で事業を営んでおります。とはいえ、創業の地である米沢市の重要性は不変です。本年は帝人グループ90周年、2018年は100周年にあたります。創業時の思いや志を引き継ぐことは、帝人グループが真に世界で存在のある企業になるために欠かせないものです。米沢市民の皆さまと良好な関係を維持できますよう、今後ともよろしくお願いいたします。

最後に、「米沢五感塾 2008」にご支援ご協力いただいた米沢市民の皆さん、そして「現地プロデューサー役」として企画立案や準備に多大なるご尽力をいただいた山崎洋一郎さん、本当にありがとうございました。また、『一燈照隅、万燈照国』の精神で自分の足下からよりよくしようと行動している各地の五感塾仲間の皆さん、そして五感塾の提唱者である北村三郎先生、本当にありがとうございました！



以上



<参考資料 2>

<米沢五感塾 2008 のカリキュラム>

- 【1日目】 座学：『行政の志、行政の原点』 米沢市長 安部三十郎氏
見学： 秦逸三記念室
座学：『上杉鷹山と直江兼統の志と原点』
米沢市上杉博物館 主任学芸員 角屋由美子氏
- 【2日目】 座学：『地域の志、建学の原点』 齊藤清一氏
体験： 芋煮づくり
体験： (株)新田 紅花染め体験
散策： 上杉公園
座学： (株)小嶋総本店
酒蔵など見学
講話『老舗の志、老舗の原点』 社長 小嶋彌左衛門氏
体験： お鷹ぼっぼの講義と絵付け体験 笹野民芸館 遠藤美子氏
- 【3日目】 座学 『家庭の志、家庭の原点（仮題）』
から・ころセンター（NPO 不登校児支援）
伊藤正俊氏、片上邦子氏、吉田美智子氏
講演&パネルディスカッション
まとめ： 米沢市への提言&感想